

農福連携を どう実践するか

答 情報提供や相談支援、地域実情に合わせる



大宜見 洋文 議員

問 農福連携等推進ビジョンに掲げられた取組を官民挙げて実践すると概要にあるが、本町は農福連携を具体的にどう実践するか。

町長 情報提供や相談支援、地域実情に合わせた取り組みの推進が主な役割で、そのように進めている。

問 農福連携推進ビジョンには農福連携に取り組む主体数を1万2千以上、地域協議会に参加する自治体を2百以上と目標設定している。本町は地域協議会という組織に参加する考えはないのか。

町長 福祉事業所であれば福祉事業所の声の高まり、農家であれば農家の声が高まったときに、我々であったり農業関連団体がこの声を取りまとめて立ち上げるのが協議会だ。声の高まりという部分ではまだそこまで至っていない。



生成AIのユニバーサル農業のイメージ

問 ユニバーサル農園とは何か。

町長 子どもから高齢者までの世代や障がいの有無を超えた多様な方々を対象として、農業体験活動を通じた交流・参画、健康増進、生きがいづくり、職業訓練、立ち直りなど多様な社会的課題の解決につながる場の事である。

問 既に本町の自然栽培農家の畑に、平日や週末問わず、朝早くからボランティア作業に、町内外から多様な方々が訪れている。ユニバーサル農園に当てはまると思うが、こ

れは規模が小さいから認められないのか。

町長 その情報は初めて聞いた。ユニバーサル農園を町が認定するものではない。

有機・自然栽培野菜を給食へ

問 学校給食で有機・自然栽培野菜を利用する自治体を調査する取り組みが2020年から毎年実施されている。調査はしているか。

町長 令和2年度から有機農業の推進状況調査により利用状況の調査が行われている。

問 5千食準備できて、質も担保できたら大丈夫という回答だった。今後栄養士と情報交換をしたいが可能か。

教育長 5千7百食供給、品質、価格面等の条件面がクリアできるのであれば今後栄養士とメニューと合わせて調整は可能だ。